

介護支援専門員の ケアマネジメントプロセスにおける課題 ——2年間の自己評価から見てきたこと——

楢木博之

1 研究背景

介護支援専門員が介護保険制度の中でケアマネジメントを担うようになって20年が経過した。その間、介護支援専門員が行うケアマネジメントの質は常に問われてきた。2013(平成25)年に出された『介護支援専門員(ケアマネジャー)の資質向上と今後のあり方に関する検討会における議論の中間的な整理』の中で、「介護支援専門員による適切なケアマネジメントは必要不可欠¹⁾」とその重要性を指摘している。しかし、同報告書では「介護保険の理念である「自立支援」の考え方が、十分共有されていない²⁾」とするなど、介護支援専門員の課題を明らかにしている。その後、法定研修の内容が見直され、介護支援専門員の質を高めていく取り組みが行われているが、柴口が「これほど『質が、質が』と言われてきた職種はありません³⁾」と指摘しているとおり、20年経過した現在においても課題となっている。

筆者は、『身延論叢』第25号において「専門研修Ⅰ 自己評価から見えた介護支援専門員のケアマネジメントにおける課題」を執筆した。その中で、介護支援専門員のケアマネジメントにおける課題として、①機関別の差が大きいこと、②ICFの考え方への苦手意識、③終結事例を振り返ることができていない、という3点を明らかにした。一方で、限界として「2018年度介護支援専門員専門研修課程Ⅰ受講者に限定しているので、介護支援専門員全体の結果とは言えない

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楡木博之）

ことが挙げられる⁴⁾』としている。そのため「今後も継続的に調査していくこと⁵⁾」の必要性を述べている。

本論は2018年度・2019年度2年間の介護支援専門員専門研修課程 I 受講者の自己評価を比較し、その結果から見えてきた介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題を明らかにすることを目的としている。

2 研究方法

2018年度・2019年度に A 県で行った介護支援専門員専門研修 I 及び更新研修 B1受講者を対象に、ケアマネジメントプロセスの実践についての自己評価を行った。日本介護支援専門員協会発行の『2訂／介護支援専門員研修テキスト』にあるケアマネジメントプロセスの「確認ポイント⁶⁾」を94項目抜粋し、自己評価表とした。94項目の内訳としては、スクリーニング6項目、インテーク14項目、アセスメント20項目、ケアプラン22項目、サービス担当者会議14項目、モニタリング13項目、終結5項目となっている。評価は「4できている、3概ねできている、2ほとんどできていない、1全く出来ていない、0該当なし」とした。対象者は2018年度専門研修 I 受講者218名、更新研修 B1受講者94名、合計312名、2019年度専門研修 I 受講者232名、更新研修 B1受講者117名、合計349名である。研修中に自己評価を行い、回答用紙を回収する集合調査とした。回収率は2018年度・2019年度いずれも100%であった。

倫理的配慮として、本研究を行うことを事前に対象者に口頭にて説明し、回答をもって同意を得たこととした。また、結果をまとめるにあたりデータはナンバリングを行い、データ入力者と分析を行う者を分けるようにした。また論文にすることにおいても個人が特定されないよう配慮している。

分析方法は、受講者全員及び介護支援専門員の勤務する機関別に、ケアマネジメントプロセス（中項目）、各項目（小項目）ごとの平均値を抽出した。「0該当なし」は機関によって行わない項目と考えて、平均値算出に加えなかった。

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

平均値は小数点第3位を四捨五入し第2位まで表記することとした。機関別と中項目、小項目の平均値が高い・低い項目についてクロス集計を行い、分析を行った。機関は、居宅介護支援事業所、居住系サービス（特定施設・小規模多機能型居宅介護・グループホーム）、介護保険施設、地域包括支援センターの4類型とした。人数の内訳は2018年度居宅介護支援事業所168名、居住系サービス59名、介護保険施設51名、地域包括支援センター32名、欠損値2名、2019年度居宅介護支援事業所200名、居住系サービス49名、介護保険施設65名、地域包括支援センター35名である。（表1）

本研究は、研修主催者である A 県介護支援専門員協会と共同で実施し、結果について本誌に掲載することの承諾を得ている。

	2018年度	2019年度
居宅介護支援事業所	168名	200名
居住系サービス	59名	49名
介護保険施設	51名	65名
地域包括支援センター	32名	35名
合計	310名	349名

表1 年度・機関別人数

3 研究結果

(1) ケアマネジメントプロセスごとの平均値

年度別ケアマネジメントプロセスごとの平均値（表2）は以下のとおりである。（※太字は平均値が高かった項目・低かった項目）

スクリーニング2018年度2.76・2019年度2.89、インテーク2018年度3.08・2019年度3.17、アセスメント2018年度2.77・2019年度2.82、ケアプラン2018年度2.68・

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

2019年度2.76、サービス担当者会議2018年度2.86・2019年度2.96、モニタリング2018年度2.77・2019年度2.82、終結2018年度2.89・2019年度2.97であった。平均値が一番低かった項目は2018年度・2019年度ともにケアプランであった。逆に一番高かった項目は2018年度・2019年度ともにインテークであった。

	2018年度	2019年度
スクリーニング	2.76	2.89
インテーク	3.08	3.17
アセスメント	2.77	2.82
ケアプラン	2.68	2.76
サービス担当者会議	2.86	2.96
モニタリング	2.77	2.82
終結	2.89	2.97

表2 年度別ケアマネジメントプロセス（中項目）ごとの平均値

機関別のケアマネジメントプロセスごとの平均値（表3）は以下のとおりである。（※太字は全体の平均値未満）

居宅介護支援事業所は、スクリーニング2018年度2.75・2019年度2.87、インテーク2018年度3.11・2019年度3.21、アセスメント2018年度2.77・2019年度2.81、ケアプラン2018年度2.71・2019年度2.79、サービス担当者会議2018年度2.91・2019年度2.99、モニタリング2018年度2.75・2019年度2.83、終結2018年度2.94・2019年度2.98であった。

居住系サービスは、スクリーニング2018年度2.76・2019年度2.91、インテーク2018年度2.96・2019年度3.09、アセスメント2018年度2.78・2019年度2.81、ケアプラン2018年度2.65・2019年度2.75、サービス担当者会議2018年度2.66・2019年度2.85、モニタリング2018年度2.75・2019年度2.82、終結2018年度2.79・2019年度2.95であった。

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

介護保険施設では、スクリーニング2018年度2.62・2019年度2.72、インテーク2018年度2.96・2019年度3.02、アセスメント2018年度2.71・2019年度2.85、ケアプラン2018年度2.53・2019年度2.63、サービス担当者会議2018年度2.79・2019年度2.90、モニタリング2018年度2.74・2019年度2.73、終結2018年度2.70・2019年度2.80であった。

地域包括支援センターは、スクリーニング2018年度3.00・2019年度3.19、インテーク2018年度3.30・2019年度3.34、アセスメント2018年度2.81・2019年度2.87、ケアプラン2018年度2.79・2019年度2.85、サービス担当者会議2018年度2.99・2019年度3.05、モニタリング2018年度2.92・2019年度2.91、終結2018年度3.05・2019年度3.13であった。

2018年度・2019年度の2年間とも全体の平均値未満だった機関別の項目は、居宅介護支援事業所のスクリーニング、居住系サービスのインテーク、サービス担当者会議、終結、介護保険施設のスクリーニング、インテーク、ケアプラン、サービス担当者会議、モニタリング、終結であった。2年間ともに介護保険施設が、全体の平均値未満の項目が一番多いという結果であった。また地域包括支援センターは、2年間とも全ての項目で全体の平均値を上回っていた。

	居宅介護支援事業所		居住系サービス		介護保険施設		地域包括支援センター	
	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度
スクリーニング	2.75	2.87	2.76	2.91	2.62	2.72	3.00	3.19
インテーク	3.11	3.21	2.96	3.09	2.96	3.02	3.30	3.34
アセスメント	2.77	2.81	2.78	2.81	2.71	2.85	2.81	2.87
ケアプラン	2.71	2.79	2.65	2.75	2.53	2.63	2.79	2.85
サービス担当者会議	2.91	2.99	2.66	2.85	2.79	2.90	2.99	3.05
モニタリング	2.75	2.83	2.75	2.82	2.74	2.73	2.92	2.91
終結	2.94	2.98	2.79	2.95	2.70	2.80	3.05	3.13

表3 機関別ケアマネジメントプロセス（中項目）ごとの平均値

(2) 2年間の小項目平均値の比較

①受講者全員

2年間の小項目平均値（受講者全員）の高い項目と低い項目を見ていく。まず、2年間それぞれの平均値の高い小項目上位5つは以下のとおりである。（表4）

1番平均値の高い小項目は、2018年度・2019年度共にインテークの「利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している」（2018年度3.53、2019年度3.54）であった。2番目は、2018年度インテークの「利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている」3.46、2019年度インテークの「個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる」3.49であった。3番目は、2018年度・2019年度共にインテークの「面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している」（2018年度3.38、2019年度3.43）であった。4番目は、2018年度アセスメントの「アセスメント様式は、課題分析標準項目（23項目）を満たすものを使用している」3.28、2019年度インテークの「利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている」3.38であった。5番目は2018年度サービス担当者会議の「サービス担当者会議は、多職種（他職種）の意見を聞く場である」3.26、2019年度インテークの「介護保険の利用者は、複数の居宅サービス事業者等の紹介を介護支援専門員に求めることができる旨の説明を行っている」3.37であった。

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	インタビュー	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.53
	2019年度	インタビュー	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.54
2	2018年度	インタビュー	利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている	3.46
	2019年度	インタビュー	個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる	3.49
3	2018年度	インタビュー	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.38
	2019年度	インタビュー	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.43
4	2018年度	アセスメント	アセスメント様式は、課題分析標準項目（23項目）を満たすものを使用している	3.28
	2019年度	インタビュー	利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている	3.38
5	2018年度	サービス担当者会議	サービス担当者会議は、多職種（他職種）の意見を聞く場である	3.26
	2019年度	インタビュー	介護保険の利用者は、複数の居宅サービス事業者等の紹介を介護支援専門員に求めることができる旨の説明を行っている	3.37

表4 平均値の高い小項目（受講者全員）

2年間それぞれの平均値の低い小項目上位5つは以下のとおりである。（表5）

1番平均値の低い小項目は、2018年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」2.05、2019年度アセスメントの「ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている」2.06であった。2番目は、2018年度アセスメントの「ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている」2.06、2019年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」2.27であった。3番目は、2018年度終

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

結の「終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある」2.13、2019年度モニタリングの「再アセスメントを通じて、より利用者にマッチした精度の高いケアプラン作成につながる視点があり、実行できている」2.37であった。4番目は、2018年度サービス担当者会議の「インフォーマルサポートの関係者が会議に出席する際、個人情報の取り扱いの範囲について、利用者・家族と具体的に確認できている。関係者に対しては個人情報の取り扱いについての留意を伝えている」2.26、2019年度アセスメントの「潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる」2.406であった。5番目は、2018年度ケアプランの「サービスの担い手を検討する際、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービスも含めた中から検討したか」2.28、2019年度同じくケアプランの「ニーズの優先順位は、専門的意見を踏まえ、利用者・家族と相談して設定しているか」2.413であった。

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	2.05
	2019年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	2.06
2	2018年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	2.06
	2019年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	2.27
3	2018年度	終結	終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある	2.13
	2019年度	モニタリング	再アセスメントを通じて、より利用者にマッチした精度の高いケアプラン作成につながる視点があり、実行できている	2.37

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

4	2018年度	サービス担当者会議	インフォーマルサポートの関係者が会議に出席する際、個人情報の取り扱いの範囲について、利用者・家族と具体的に確認できている。関係者に対しては個人情報の取り扱いについての留意を伝えている	2.26
	2019年度	アセスメント	潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる	2.406
5	2018年度	ケアプラン	サービスの担い手を検討する際、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービスも含めた中から検討したか	2.28
	2019年度	ケアプラン	ニーズの優先順位は、専門的意見を踏まえ、利用者・家族と相談して設定しているか	2.413

表5 平均値の低い小項目（全体）

②居宅介護支援事業所

2年間の小項目平均値の高い項目と低い項目を機関別で見っていく。居宅介護支援事業所の2年間それぞれの平均値の高い小項目上位5つは以下のとおりである。（表6）

1番平均値の高い小項目は、2018年度インテークの「利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している」3.55、2019年度は同じくインテークの「介護保険の利用者は、複数の居宅サービス事業者等の紹介を介護支援専門員に求めることができる旨の説明を行っている」3.5404であった。2番目は、2018年度インテークの「利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている」3.54、2019年度インテークの「個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる」3.54であった。3番目は、2018年度アセスメントの「アセスメント様式は、課題分析標準項目（23項目）を満たすものを使用している」3.52、2019年度インテークの「利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している」3.535であった。4番目は、2018年度インテークの「介護保険の利用者は、複数の居宅サービス事業者等の紹介を介護支援専門員に求めることができる旨の説明を行っている

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

る」3.41、2019年度アセスメントの「アセスメント様式は、課題分析標準項目（23項目）を満たすものを使用している」3.50であった。5番目は2018年度・2019年度共にインテークの「面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している」（2018年度3.38、2019年度3.45）であった。

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	インテーク	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.55
	2019年度	インテーク	介護保険の利用者は、複数の居宅サービス事業者等の紹介を介護支援専門員に求めることができる旨の説明を行っている	3.5404
2	2018年度	インテーク	利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている	3.54
	2019年度	インテーク	個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる	3.54
3	2018年度	アセスメント	アセスメント様式は、課題分析標準項目（23項目）を満たすものを使用している	3.52
	2019年度	インテーク	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.535
4	2018年度	インテーク	介護保険の利用者は、複数の居宅サービス事業者等の紹介を介護支援専門員に求めることができる旨の説明を行っている	3.41
	2019年度	アセスメント	アセスメント様式は、課題分析標準項目（23項目）を満たすものを使用している	3.50
5	2018年度	インテーク	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.38
	2019年度	インテーク	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.45

表6 平均値の高い小項目（居宅介護支援事業所）

居宅介護支援事業所の2年間それぞれの平均値の低い小項目上位5つは以下のとおりである。（表7）

1番平均値の低い小項目は、2018年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」2.05、2019年度アセスメントの「ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている」2.07であった。2番目は、2018年度アセスメントの「ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている」2.09、2019年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」2.33であった。3番目は、2018年度サービス担当者会議の「インフォーマルサポートの関係者が会議に出席する際、個人情報取り扱いの範囲について、利用者・家族と具体的に確認できている。関係者に対しては個人情報の取り扱いについての留意を伝えている」2.19、2019年度モニタリングの「再アセスメントを通じて、より利用者にマッチした精度の高いケアプラン作成につながる視点があり、実行できている」2.35であった。4番目は、2018年度終結の「終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある」2.22、2019年度アセスメントの「潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる」2.40であった。5番目は、2018年度アセスメントの「潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる」2.29、2019年度ケアプランの「サービスの担い手を検討する際、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービスも含めた中から検討したか」と「インフォーマルサポートの利用の可能性も常に視野に入れている」2.43であった。

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	2.05
	2019年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	2.07
2	2018年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	2.09
	2019年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	2.33
3	2018年度	サービス担当者会議	インフォーマルサポートの関係者が会議に出席する際、個人情報の取り扱いの範囲について、利用者・家族と具体的に確認できている。関係者に対しては個人情報の取り扱いについての留意を伝えている	2.19
	2019年度	モニタリング	再アセスメントを通じて、より利用者にマッチした精度の高いケアプラン作成につながる視点があり、実行できている	2.35
4	2018年度	終結	終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある	2.22
	2019年度	アセスメント	潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる	2.40
5	2018年度	アセスメント	潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる	2.29
	2019年度	ケアプラン	サービスの担い手を検討する際、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービスも含めた中から検討したか	2.43
		モニタリング	インフォーマルサポートの利用の可能性も常に視野に入れている	2.43

表7 平均値の低い小項目（居宅介護支援事業所）

③居住系サービス

居住系サービスの2年間それぞれの平均値の高い小項目上位5つは以下のとおりである。（表8）

1番平均値の高い小項目は、2018年度・2019年度ともにインテークの「利用者

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楡木博之）

や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している」（2018年度3.46、2019年度3.59）であった。2番目は、2018年度インテークの「面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している」3.30、2019年度インテークの「個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる」「面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している」「アセスメント様式は、課題分析標準項目（23項目）を満たすものを使用している」の3項目が3.35であった。3番目は、2018年度ケアプランの「利用者や家族がどのような生活を送っていききたいか、それぞれの意向を確認しているか」3.29、4番目は、2018年度アセスメントの「清潔感のある服装・身だしなみ、言葉遣い、名刺の提示方法、自宅訪問時のマナーを適切に実行できる」3.20であった。5番目は2018年度インテークの「判断力が低下している利用申込者の契約締結に際し、家族への連絡、成年後見制度等の利用を視野に入れている」3.13、2019年度インテークの「利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている」3.33であった。

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	インテーク	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.46
	2019年度	インテーク	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.59
2	2018年度	インテーク	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.30
	2019年度	インテーク	個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる	3.35
		インテーク	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.35
		アセスメント	アセスメント様式は、課題分析標準項目（23項目）を満たすものを使用している	3.35
3	2018年度	ケアプラン	利用者や家族がどのような生活を送っていききたいか、それぞれの意向を確認しているか	3.29

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

4	2018年度	アセスメント	清潔感のある服装・身だしなみ、言葉遣い、名刺の提示方法、自宅訪問時のマナーを適切に実行できる	3.20
5	2018年度	インテーク	判断力が低下している利用申込者の契約締結に際し、家族への連絡、成年後見制度等の利用を視野に入れている	3.13
	2019年度	インテーク	利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている	3.33

表8 平均値の高い小項目（居住系サービス）

居住系サービスの2年間それぞれの平均値の低い小項目上位5つは以下のとおりである。（表9）

1番平均値の低い小項目は、2018年度終結の「終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある」1.95、2019年度アセスメントの「ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている」2.00であった。2番目は、2018年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」2.00、2019年度終結の「終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある」2.17であった。3番目は、2018年度アセスメントの「ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている」2.07、2019年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」2.18であった。4番目は、2018年度ケアプランの「介護保険のサービス事業所の選定では、複数の選択肢を示し、その特徴を説明し、利用者が自分にとって最善の選択ができるだけの十分な情報を提供しているか。（介護支援専門員の誘導になっていないか）」2.10、2019年度ケアプランの「ニーズの優先順位は、専門的意見を踏まえ、利用者・家族と相談して設定しているか」2.31であった。5番目は、2018年度インテークの「セルフプラン、居宅介護支援事業所の選択が可能であることの説明

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

を行っている」2.15、2019年度アセスメントの「潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる」2.37であった。

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	終結	終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある	1.95
	2019年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	2.00
2	2018年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	2.00
	2019年度	終結	終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある	2.17
3	2018年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	2.07
	2019年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	2.18
4	2018年度	ケアプラン	介護保険のサービス事業所の選定では、複数の選択肢を示し、その特徴を説明し、利用者が自分にとって最善の選択ができるだけの十分な情報を提供しているか。（介護支援専門員の誘導になっていないか）	2.10
	2019年度	ケアプラン	ニーズの優先順位は、専門的意見を踏まえ、利用者・家族と相談して設定しているか	2.31
5	2018年度	インテーク	セルフプラン、居宅介護支援事業所の選択が可能であることの説明を行っている	2.15
	2019年度	アセスメント	潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる	2.37

表9 平均値の低い小項目（居住系サービス）

④介護保険施設

介護保険施設の2年間それぞれの平均値の高い小項目上位5つは以下のとおりである。（表10）

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

1番平均値の高い小項目は、2018年度・2019年度ともにインテークの「利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している」（2018年度3.47、2019年度3.49）であった。2番目は、2018年度サービス担当者会議の「サービス担当者会議は、多職種（他職種）の意見を聞く場である」3.43、2019年度インテークの「面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している」3.42であった。3番目は、2018年度インテークの「面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している」3.41、2019年度インテークの「個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる」3.38であった。4番目は、2018年度サービス担当者会議の「サービス担当者会議は、関係者と目指す方向性を共有する機会である」3.26、2019年度インテークの「清潔感のある服装・身だしなみ、言葉遣い、名刺の提示方法、自宅訪問時のマナーを適切に実行できる」3.33であった。5番目は、2018年度インテークの「利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている」3.22、2019年度サービス担当会議の「サービス担当者会議は、多職種（他職種）の意見を聞く場である」3.28であった。

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	インテーク	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.47
	2019年度	インテーク	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.49
2	2018年度	サービス担当者会議	サービス担当者会議は、多職種（他職種）の意見を聞く場である	3.43
	2019年度	インテーク	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.42
3	2018年度	インテーク	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.41
	2019年度	インテーク	個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる	3.38

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

4	2018年度	サービス担当者会議	サービス担当者会議は、関係者と目指す方向性を共有する機会である	3.26
	2019年度	インテーク	清潔感のある服装・身だしなみ、言葉遣い、名刺の提示方法、自宅訪問時のマナーを適切に実行できる	3.33
5	2018年度	インテーク	利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている	3.22
	2019年度	サービス担当者会議	サービス担当者会議は、多職種（他職種）の意見を聞く場である	3.28

表10 平均値の高い小項目（介護保険施設）

介護保険施設の2年間それぞれの平均値の低い小項目上位5つは以下のとおりである。（表11）

1番平均値の低い小項目は、2018年度サービス担当者会議の「インフォーマルサポートの関係者が会議に出席する際、利用者・家族の同意を得ている」1.59、2019年度アセスメントの「ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている」2.046であった。2番目は、2018年度サービス担当者会議の「インフォーマルサポートの関係者が会議に出席する際、個人情報の取り扱いの範囲について、利用者・家族と具体的に確認できている。関係者に対しては個人情報の取り扱いについての留意を伝えている」1.73、2019年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」2.048であった。3番目は、2018年度ケアプランの「サービスの担い手を検討する際、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービスも含めた中から検討したか」1.918、2019年度モニタリングの「インフォーマルサポートの利用の可能性も常に視野に入れている」2.06であった。4番目は、2018年度終結の「終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある」1.922、2019年度インテークの「セルフプラン、居宅介護支援事業所の選択が可能であることの説明を行っている」2.10で

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

あった。5番目は、2018年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」1.96、2019年度ケアプランの「複数のサービス事業所等の情報を提供しているか」2.15であった。

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	サービス担当者会議	インフォーマルサポートの関係者が会議に出席する際、利用者・家族の同意を得ている	1.59
	2019年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	2.046
2	2018年度	サービス担当者会議	インフォーマルサポートの関係者が会議に出席する際、個人情報の取り扱いの範囲について、利用者・家族と具体的に確認できている。関係者に対しては個人情報の取り扱いについての留意を伝えている	1.73
	2019年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	2.048
3	2018年度	ケアプラン	サービスの担い手を検討する際、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービスも含めた中から検討したか	1.918
	2019年度	モニタリング	インフォーマルサポートの利用の可能性も常に視野に入れている	2.06
4	2018年度	終結	終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある	1.922
	2019年度	インテーク	セルフプラン、居宅介護支援事業所の選択が可能であることの説明を行っている	2.10
5	2018年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	1.96
	2019年度	ケアプラン	複数のサービス事業所等の情報を提供しているか	2.15

表11 平均値の低い小項目（介護保険施設）

⑤地域包括支援センター

地域包括支援センターの2年間それぞれの平均値の高い小項目上位5つは以下

のとおりである。（表12）

1番平均値の高い小項目は、2018年度インテークの「利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている」3.69、2019年度インテークの「個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる」3.63であった。2番目は、2018年度・2019年度ともに、インテーク「利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している」（2018年度3.66・2019年度3.60）であった。3番目は、2018年度終結の「引き継ぎが必要な終結のケースでは、他事業所や他機関への情報提供について個人情報の取り扱いの規定を遵守した対応がとれている」3.48、2019年度インテークの「利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている」3.57であった。4番目は、2018年度インテークの「個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる」3.44、2019年度インテークの「介護保険の利用者は、複数の居宅サービス事業者等の紹介を介護支援専門員に求めることができる旨の説明を行っている」3.54であった。5番目は2018年度インテークの「判断力が低下している利用申込者の契約締結に際し、家族への連絡、成年後見制度等の利用を視野に入れている」3.44、2019年度インテークの「面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している」、ケアプランの「複数のサービス事業所等の情報を提供しているか」サービス担当者会議の「サービス担当者会議は、多職種（他職種）の意見を聞く場である」の3項目が3.46であった。

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	インテーク	利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている	3.69
	2019年度	インテーク	個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる	3.63
2	2018年度	インテーク	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.66
	2019年度	インテーク	利用者や家族との信頼関係の構築の重要性を理解している	3.60
3	2018年度	終結	引き継ぎが必要な終結のケースでは、他事業所や他機関への情報提供について個人情報の取り扱いの規定を遵守した対応がとれている	3.48
	2019年度	インテーク	利用申込者・家族の理解度に応じた重要事項、個人情報の使用に関する説明を行っている	3.57
4	2018年度	インテーク	個人情報の取り扱いについて、法令遵守の観点から行うべき具体的事項を整理し、実行できる	3.44
	2019年度	インテーク	介護保険の利用者は、複数の居宅サービス事業者等の紹介を介護支援専門員に求めることができる旨の説明を行っている	3.54
5	2018年度	インテーク	判断力が低下している利用申込者の契約締結に際し、家族への連絡、成年後見制度等の利用を視野に入れている	3.44
	2019年度	インテーク	面接は、プライバシーが保たれる環境で実施している	3.46
		ケアプラン	複数のサービス事業所等の情報を提供しているか	3.46
		サービス担当者会議	サービス担当者会議は、多職種（他職種）の意見を聞く場である	3.46

表12 平均値の高い小項目（地域包括支援センター）

地域包括支援センターの2年間それぞれの平均値の低い小項目上位5つは以下のとおりである。（表13）

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楡木博之）

1番平均値の低い小項目は、2018年度・2019年度共にアセスメントの「ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている」（2018年度1.97、2019年度2.17）であった。2番目は、2018年度ケアプランの「週間サービス計画表は、夜間や土日祝日含め、生活のリズムがわかるものになっている」2.19、2019年度モニタリングの「再アセスメントを通じて、より利用者にマッチした精度の高いケアプラン作成につながる視点があり、実行できている」2.26であった。3番目は、2018年度ケアプランの「目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか」2.25、2019年度ケアプランの「週間サービス計画表は、夜間や土日祝日含め、生活のリズムがわかるものになっている」2.30であった。4番目は、2018年度ケアプランの「月単位の記載欄には、福祉用具の利用状況、通院、月単位での行事や訪問者等の情報も網羅されているか」2.25、2019年度アセスメントの「潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる」2.34であった。5番目は、2018年度集結の「終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある」2.28、2019年度ケアプランの「24時間、1週間、月単位の利用者の生活概況をつかみ、第3表を見ることでわかる記載になっているか」2.37であった。

	年度	中項目	小項目	平均値
1	2018年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	1.97
	2019年度	アセスメント	ICF（国際生活機能分類）の視点から整理できている	2.17
2	2018年度	ケアプラン	週間サービス計画表は、夜間や土日祝日含め、生活のリズムがわかるものになっている	2.19
	2019年度	モニタリング	再アセスメントを通じて、より利用者にマッチした精度の高いケアプラン作成につながる視点があり、実行できている	2.26

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

3	2018年度	ケアプラン	目標の設定期間は、専門職の意見を踏まえ、利用者と共に設定しているか	2.25
	2019年度	ケアプラン	週間サービス計画表は、夜間や土日祝日含め、生活のリズムがわかるものになっている	2.30
4	2018年度	ケアプラン	月単位の記載欄には、福祉用具の利用状況、通院、月単位での行事や訪問者等の情報も網羅されているか	2.25
	2019年度	アセスメント	潜在化している課題に気づき、アセスメントと課題の関連を説明できる	2.34
5	2018年度	終結	終結したケースについて、自らのケアマネジメントの実践について評価を行っている。また、評価を行える事業所の環境がある	2.28
	2019年度	ケアプラン	24時間、1週間、月単位の利用者の生活概況をつかみ、第3表を見ることでわかる記載になっているか	2.37

表13 平均値の低い小項目（地域包括支援センター）

4 考察

2018年度・2019年度介護支援専門員専門研修課程Ⅰ受講者の自己評価と比較し、その結果から見えてきたことは以下のとおりである。①地域包括支援センターの平均値は高く、居住系サービス・介護保険施設の平均値は低い。②インテークの自己評価は高く、ケアプランは低い。③全ての機関でICFの視点についての自己評価は低い。

①は2018年度同様、2019年度も機関別の差が生じた結果となった。受講者全体の平均値との比較で見えていくと、地域包括支援センターが全ての中項目において上回っていた。一方で居住系サービス・介護保険施設は、中項目において受講者全体の平均値より下回る結果であった。機関別の差が生じる背景として、ケアマネジメントを実践している者が事業所内に複数いるか、事業所内でケアマネジメントについて学ぶことができる環境にあるか等の影響が考えられる。

居住系サービス・介護保険施設では、介護支援専門員としてケアマネジメント実践を行っている者が複数配置されていることは少なく、そのため事業所内でOJT等とおして学び合う機会を作りにくい環境になってしまう。このような職場環境が、自己評価が低い結果に繋がっていると考えられる。

②はインテークでは特に利用者・家族との関係性、面接の環境、個人情報の取り扱いについて自己評価が高い傾向にあった。機関別に見てもこれらについては全て自己評価が高い傾向であった。この結果から、介護支援専門員がインテーク時において、利用者・家族と関係構築やプライバシーの配慮への意識が高い傾向にあると言える。一方で、ケアプランの自己評価が低いことについては、専門職の意見も含めた内容になっていない、インフォーマルサポートを含めた内容になっていない等が課題として見えてきた。機関別においても専門職の意見も含めた内容は全ての機関で、インフォーマルサポートを含めた内容は地域包括支援センター以外の機関で自己評価が低いという結果であった。2013年に出された『介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質向上と今後のあり方に関する検討会における議論の中間的な整理』の中でも、「多職種協働が十分に機能していない」「インフォーマルサービス（介護保険給付外のサービス）のコーディネート、地域のネットワーク化が必ずしも十分できていない⁷⁾」と同様の課題を指摘している。2013年に指摘された課題が、現在でも継続していると言える。

③は筆者が『身延論叢』第25号「専門研修Ⅰ 自己評価から見えた介護支援専門員のケアマネジメントにおける課題」の中で指摘した「ICFの考え方への苦手意識⁸⁾」が、2019年度の結果を見ても同様の課題があった。機関別でも全ての機関で自己評価が低いという結果を見ても、介護支援専門員がICFの考え方への苦手意識を持ってケアマネジメント実践を行っていると言える。この結果から、ICFの考え方は法定研修の中で学ぶ機会があるが、それだけでは不十分とも言える。法定研修だけではなく、それ以外の中でも学ぶ機会があり、アセ

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおける課題（楢木博之）

メントを行う際に ICF について考えていくことが必要と考えられる。

2018年度・2019年度の介護支援専門員専門研修課程Ⅰ受講者の自己評価から、ケアマネジメントプロセスにおける介護支援専門員の課題を明らかにした。しかし今回の結果はあくまでも A 県における2年間の介護支援専門員専門研修課程Ⅰ受講者に限定されたものであり、全ての介護支援専門員の課題とは言えない。介護支援専門員専門研修課程Ⅰ受講者は、経験年数が少ない人が受講することが多い研修である。そのため経験年数が5年・10年以上の者は含まれていない。機関別だけではなく、経験年数別の課題も明らかにして、介護支援専門員のキャリアアップの指標を提示していく必要性も感じている。

注

- 1) 介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質向上と今後のあり方に関する検討会（2013）『介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質向上と今後のあり方に関する検討会における議論の中間的な整理』4頁。
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002s7f7.html>)
- 2) 前掲報告書5頁。
- 3) 柴口里則（2020）「介護保険制度創設20年 特別企画 私はこう見る 介護保険のターニングポイント」『月刊ケアマネジャー』（10）28-31頁。
- 4) 楢木博之（2020）「専門研修Ⅰ 自己評価から見えた介護支援専門員のケアマネジメントにおける課題」『身延論叢』（25）34頁。
- 5) 前掲論文34頁。
- 6) 2訂／介護支援専門員研修テキスト編集委員会（2018）『介護支援専門員 専門研修課程Ⅰ（2訂／介護支援専門員研修テキスト）』日本介護支援専門員協会、24-45頁。
- 7) 前掲報告書5頁。
- 8) 前掲論文33頁。

〈キーワード〉介護支援専門員、ケアマネジメントプロセス、自己評価